

1. 集計結果

○回答数

- ・保護者による評価 12人（12人中）
- ・職員による評価 7人（7人中）

○実施期間

- ・2024年1月5日～15日

○評価の数値状況

- *別紙を参照

2. 分析・討議

○保護者による評価

- ・全体的に「はい」が占めている。
- ・「子どもは活動を楽しみにしているか」の項目に、「とても楽しみにしている」という意見もある。子どもに即した豊かな内容を創造することを引き続き大切にしていきたい。
- ・「活動に満足しているか」の項目に、「子ども同士のやり取りが増えた」という意見もある。子どもと職員の関係だけではなく、子ども同士の関係も豊かに作り出せるように引き続き取り組んでいきたい。

○職員による自己評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「利用定員は、指導訓練室などの面積との関係で適切であるか」の項目に、「十分に広い場所で活動できている」という意見もある。引き続き、現在の広さの活動場所を確保していきたい。
- ・「子どもの行方不明や、部外者の勝手な侵入が起こらないような対策をとっているか」の項目に、「ドアは、突然の抜け出しがないように対応されている」という意見もある。事故などを防止するための対策を引き続き取っていきたい。
- ・「虐待防止マニュアルを策定するとともに、虐待を防止するための研修を行なっているか」の項目に、「虐待はいっさいしないことを心がけている」という意見もある。虐待はいっさいしないことを引き続き徹底したい。
- ・「子どもの活動の記録を書いているか」の項目に、「毎回必ず書いている」という意見もある。活動記録を漏れなく書くことを引き続き徹底したい。
- ・「子どものことがわからないと感じたとき、傍観するのではなくて、働きかけて変化をつくりだし、理解しようとしているか」の項目に、「子どもは、見てるだけではわからない。接することで、その子が何を考えているかがわかってくるのではないか」という意見もある。子どもと関わり合いながら、実体験としてつかんだ子ども理解を進めることを引き続き大切にしたい。
- ・「子どもの“問題行動”に出会うとき、その内側に、その子の本当の願いが隠されてい

ると考えて、内面を探ろうとしているか」の項目に、「なぜ、そういう行動に出るのかを常に考えるようにしている」という意見もある。子どもの行動には、本人なりの理由が必ずあるという視点を引き続き大事にしていきたい。

- ・「遊びや生活をつうじて、子どもの気持ちの育ち（人格の形成）をはかっていくことを意識して、子どもに働きかけているか」の項目は、「子どもが豊かに育つうえで、遊びや生活が大事だと思うので、子どもと楽しみながら活動している」という意見もある。子どもを人間として豊かに育てるために、その子に即した活動をつくり出していくことを引き続き重視したい。
- ・「子ども理解や実践についての、外部の学習会や講座に参加して、見識を高めようとしているか」の項目は、「はい」が5、「わからない」が1、「いいえ」が1となっている。「放課後連の研修会に参加した」という意見もある。外部の研修会への参加を引き続き呼びかけていきたい。

3. 改善目標

○保護者による評価

- ・すべてが高い評価となっている。
- ・子どもの行動の内側に込められた、その子の願いや悩みを汲み取り、実践に生かしていきたい。同時に、そうした事実を保護者にていねいに伝えていきたい。

○職員による自己評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。
- ・子どもの行動の表面に振り回されず、1人ひとりの内面を探る力をいっそう身に着けていきたい。そのために、事例検討を大事にし、子どもへの見方を集団的に高めていきたい。
- ・研修会は、子ども理解を深めるために、内容の充実をいっそう図りたい。外部の学習会などへの参加も引き続き呼びかけたい。

4. 公表方法

○保護者・職員への文書の配布（2024年1月31日より）

○ホームページへの掲載（2024年1月31日より）